
ニーナのEvery day

瑠紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二ーナのEvery day

【NZコード】

N3094D

【作者名】

瑠紀

【あらすじ】

私は帰国子女の刈谷崎二ーナ。母はイギリス人父は日本人。親なしとなつた二ーナの前に彩崎グループの御曹司秦が現れた！！そして養子になる二ーナ。もちろん、ぼーっとして入れるはずもなく・

プロローグ 秦とNina。

世界は、私を嫌っている。
私の存在を忘れている。

神なんか信じない。

神がもじいるのだとしたら、 、 、

「Eli , Eli , I am sabachthani? Has
my existence been forgotten?」

思わずつぶやいてしまった。

私は帰国子女で、独り言などは英語になる。

目の前には、母と父の寝ている・・・姿がある。

いつ、目を覚ましてくれるのか。

黒い服の人たちは泣かず、ただ、「こんな厄介な子を残して・・・
誰が引き取るの?」といつっていた。

私は誰に引き取られようがかまわない。

ただ、最愛の両親を神に奪われて悲しんでいた。
だが、不思議と涙はこぼれなかつた。

私は、すぐ教会の裏庭に行つた。

日本語で最近歌う事が多くなつたなと思いながら

eli · · eli · · The god betrayed me .

Why is it me?

What did I do?

Or , i s t h i s a d r e a m ?

I f i t i s a d r e a m , I w a n t y o u t
o w a k e u p e a r l y .

S u c h a n i g h t m a r e

I t i s u n n e c e s s a r y .

M i s c h i e v o u s o f g o d

I t i s n o t p o s s i b l e t o p e r m i t e
v e n i n c a s e o f t h e g o d .

I r e a d y o n l y h a v e t o d i s a p p e a r .

T h e p a r t i c u l a r w o r l d

R u i n .

私は頭の中で思いついたことを歌つた。

「いい声だけど、歌つてる内容は怖いね。」

よく、そんな事を言われた。

「声きれいだね。ねえ、僕のお父さんが君を引き取りたいそつだけ
ど。」

目の前には美しい少年がいた。

「引き取る？ああ、養子のこと。分かりました。」

「よかつた。他の人は君の事を酷く扱おうとしてたみたいだし」「余計な事を言う人だな・・それが私の第一印象。

「貴方の事はなんて呼べばいい？」

「名前を知らないから。

「僕は、彩崎あやさき秦しん。しんって呼んで。」

あやざき・・・

「アハ 分かつた？彩崎グループの御曹司ね、僕。」

「まじで？あたし、そんな所の養子になるって大丈夫なわけ？」

「あたしは、刈谷崎かりやざき二一ナ。母がイギリス人だからしたの名前はNina

だけど。」

よく、「なんで二一ナ？」って聞かれるから先に言つた。

「刈谷崎じゃなくともう彩崎ね！！よろしく。」

そういうながら笑みをうかべ手を差し出してきた。握手だろう
母と父が死んだことも一瞬忘れかけるほどまぶしい、純粹な笑顔だ
った。

「よろしく」

そう手を握り返した。

プロローグ 秦とZion。（後書き）

瑠璃です。

ちょっとシリアルを書いてみたくって書きました。
英語はちょっと自信あるんですけど、間違つたら教えてください
ね

一ーナの歌の意味。秦。

e l i • . . e l i • . . 神は私を裏切った。

なぜ私なんだ？

私は何かしたか？

それともこれは夢？

それが夢であるなら、私は、早く目覚めて欲しい。

こんな悪夢

いらない。

神の悪戯。

神だとしても許さない。

消えてしまえばいい。

こんな世界

滅びる。

彼女は、そんな事を歌っていた。

そういえば、彼女の家系はややこしい。

今、死んだ母親や父親は彼女の本当の両親じゃない。

彼女は3歳のころ両親が死に、今の両親の所へついた。

両親達は実の娘のように、可愛がってくれたらしい。

彼女にとって、実の親と何の代わりもない存在だったのだ。

彼女にとって、この両親はなくてはならない存在だったのだ。

ニーナは何を望む。

俺の家に来て、不幸は取り扱えるのか？

いや、無理だろう。

彼女が必要としているのは愛。

俺の家には愛のAもない。

俺の家は金はあるが親が金の事しか考えていない。

俺は親が嫌いだ。

あの親は子供が目に映っていない。

子供は操り人形。

そういう人間だ。

ニーナが穢れる事がないように。

俺が見守る。

そう決めた。

ニーナが傷ついても、俺には結婚したいしようもないが。

ニーナ・・・なぜお前は心を開かず・・・

This hard decision この悲しい決断

It permits . 許して欲しい。

シリアルから少し開放。ニーナの課題。

今の私に

Am I unhappy? 私は不幸?

Or, is it lucky? それとも幸運なのか。

About what you think. 貴方は一体何を考
えていいる。

Is it happy? 楽しいか?

It is happy what. それで満足か?

Us . . . Do not roll it. 僕達を巻き込む
な。

I am unrelated to anything. 僕は
関係ない。

神がいたとすれば、

The god is a satan. 神は悪魔。

The satan is Ototenshi . . 悪魔は墮
天使だらう。

幸運をもたらしたのは自分。

信じられるのも自分。

結局、なにも信じてない。

信じてもいいのか？

ぴったりな歌

「ねえ、こないださ、e l i - e l i - っていつてたよね？何語？」

秦が私の部屋に入ってきた。

一通り勉強は終わり、復習、予習、自分が興味のある勉強をする前に歌つていた。

なぜ、わたしがこんなに勉強をしているかといつと、

秦が彩崎グループをつぐときに、私を秘書にしたいそつだ。

「分からぬ。確かポーランド語だと思ひ。」

なんか、ある男が死刑の間際こ、いつ叫んだといつ。

「E l i - E l i - i a m a s a b a c h t h a n - o - ?

「そう！…それそれ。なんていう意味？」

— 神よ神よ。なぜ私をお見捨てになりましたか？ —

「…・それより、何の用？」

ただ、これを聞きに来ただけじゃあるまい。

「うん。こないだ、両親が死んだのに俺、君の氣も考えず、喋っちゃつたから。」

いがいと、そういうことはまじめか。

「気にしないから。」

本当の気持ちだ。そういう人はたくさんいたから慣れている。

「違うよーー俺が大人達とは違うと思われたいの。」

ガキがコイツ。こんな事にこだわるなんて。しかも僕から俺になつてるし。

「ん？初対面の人には礼儀正しく…つてね」

なるほど。しっかりコイツのテンションは高いな。

「ねえ、俺といタリア語で会話しよーー。」

はあ？ あたしイギリスからの帰国子女なんだけど。

「イタリア語分かるんだろ？」

そういうながら泰は私の机の上にあるイタリア語の文庫書を指で指した。

ああ、なるほど。 . . . 片付けて大切な。

「Facciamo presto.」

ああ、はじまっちゃつたか。

「めんべくせい。イタリア語とかマスターしないし。英語ならイケド。」

英語なら日本語で会話するより簡単だし。

「えへ、それ二ーナのほうが有利だし。」

駄々こねてる。肝！－！

「お前はガキかよ。あたしは今忙しいし。駄々こねるんだつたらやんないよ？」

ぴたつと止まった。

「ううう。Inna . . . Is it cruel?」

「I am not cruel.
It is an angel.」

「うわ！…自分で残酷じやないって言つた上に天使つて…」
「ナ自意識過剰？？」

「いるせー

「黙れ。会話終了。さつととでていきな。」

あたしが秦をトビラまで押したら

「Do not get a cold.」

なんんてキザな言葉を残して出て行きやがった。

・・・・風邪なんてひかねえよ。

態と秦が机に忘れていつたもの。

「風邪に注意」

と書かれたのど飴だった。

ドンだけ心配性だよ。

まあ、いちょう

「…………ありがとう」

…………もう本人いなきけど フフ

秦 視点。 バンド。

二一ナガ、笑つた。

俺が

「D o n o t g e t a c o l d .

風邪をひ

くなよ」

つて言つたら少し微笑んだ。

二一ナ美人だし、笑つたらちょー可愛い。

あの飴なめてくれるかな～なんて考えてたら、

「よー！秦。バンド活動今からな

」

と、陸が言いにきた。

つか、俺の邸に勝手に入つてきてるし。

「へいへい。」

陸にテキトーに返事を返した。

「あ、そーいや歌詞考えられたかよ？」

ああ、歌詞か・・・

「ま、いちよーな」

そういうつて歌詞を渡した。

たぶん没かな・・・

「おい」

ほら・・

「この英語なんて読む？」

は？・・・あり得ねー中2にもなつてわかんねーとか。

「おい！一英才教育を受けたお前と俺と一緒にすんなよ。」

いや、学校でもならつたし。

「俺、英語の時間になると寝ちゃうんだよなー」

ああ、なるほど。そーいえば、コイツの英テスト15点だったつけ。

「おい、なに笑つてんだよ。」

「ニヒニヒセニ」

英語の歌詞か

意味は

タイヨウの篠い光を受けてやさしくに包まれた気がした。

何を驚く。

何が楽しい！

そんな感情どうかへいつちまた。

一 時期の愛情はいらぬえから。

明日晴れたら」と考へる。僕の頭。

- 思考で何が悪い？

そんな頭にしたのはテメえだろ？

「みたいだな。」

「……あのさ。お前、なんか悩み抱えてんのか?」

陸なりの心遣い

「・・・・いろいろとな
こんな言葉しか出ない。

「まあ、何かあつたら相談しろよ。」の歌詞は、合格な。

「つづく。合格つて何だよ」

「まあ、いいじゃねーか。お前んちの防音室でやつらが。
俺んちには3つの防音室がある。

「いいけど？」

おつしとでもいうようにガツツポーズをしていた。

あ、二ーナ忘れてた。

どうしようつ・・

「おい！…皆あと5分で来るつてや。」

5分つて・・

「お前絶対『あと5分で』ねえーとぶつ殺すぞ…。』とかいって脅
しただる。」

メールだつたから声は聞こえなかつたけどなんとなく分かる。

「あ、ばれた？さすがだな ハハ」

まあ、二ーナのことビーセいつかばれるし、大丈夫だろ・・

秦視点。バンド。（後書き）

次話で秦の考えた歌詞、英語版を書きます。
よろしく

隣といーな。

「Light with easy sun was received
ved and I . . easiness . . thought
that I was encompassed .

surprised

is happy ?

The feelings do not exist .

Love at the moment is unnecessary
ary .

I thought rain tomorrow .

I of minus idea . Is it bad ?

It is you that did in this way .

「

ふう、と俺はゆっくり息を吐く。

今は第2番の防音室。

第1番はいーなが使つてた。

そして今、曲を歌い終わった所。

これはずいぶんロックになつたな。

そんな事を考えてたら、いーなが入つてきた。

「ちょ『』のかわいい『誰！？？秦の彼女？』

二一ナが途中で会話に入られたのが気に入らなかつたのか、頬を心なしか膨らませている。

「ちげーよ。ん一年は変わんないけど妹？かな。」

俺は誕生日が1月3日で二一ナは2月16日。

「・・・それより、今の歌秦の歌でしょ？」

二一ナがまだふてくされてるのか、低い声を出した。

「うん。どうだつた？意外とうまかつたでしょ？」

へへつちよつと自信あんだー

「・・・いつちや悪いけどドト手。音程が少しおかしいし、英語の発音がなつてない。・・・なにより感情がこもつてないね。」

・・・・・

啞然とするばかり。

二一ナつてここまで口が辛かつた？

「・・・ねえ君。じゃあ、そんなに言つなら君が歌つてよ。」

陸がイラついたようにいつ。

やばい！..陸がきたらだれかれかまわず殴る。（挑発した相手を）

「ちよ、落ち『嫌だね。誰かの前で歌うの好きじやない。それに・・・』

二一ナは周りをぐるつと見回した。

「あなたたちみたいなのがいるといひうど歌うのは無理。」

時が止まつたかと思った。

しかし、この沈黙を破ったのは、

陸だった。

陸がついにきた

— おい！

俺はそういうて陸を止めようかと思つたけど、この中に入つていけばお前も殺られるぞ。

そこ、みんなの目が言ひてた

陸が一トナの胸倉をつかんだ。

しかし、二ノナは動じない。

「女、うるせーんだよ。あんたの「どその手は暴言を吐いたり、殴つたりするためにあるの?もしそうだったら、

—

「一ナがため息をこした

その瞬間、いつも冷たいオーラがなくなり、どす黒いオーラが見えた。否、見えた気がした。

「あたしがあんたをつぶす。」

二ーナはいつも、厳しい、冷たい口調だけじ、こんな言葉聞いた事がない。

陸がついに殴りかかつた。

胸倉をつかまれて いるからよける事は無理・・・

一瞬の出来事だった。

ニーナがすばやく胸倉をつかんでる陸の手をぐねり、もつひとつの中で殴りかかってきた手を受け止め、すばやく練らした。

この技、見たことある。

少林寺かなんかだったと思ひ。

「・・・・あたしをつぶすのは誰にも出来ないよ。」

ニーナが厳しい、冷たい、肉の味を覚えた熊を哀れむようにみた女神のようだ、言い放った。

ニーナの謎が、また増えた。

陸ヒート。 (後書き)

ちょっと表現がおかしいと思いますが、次話で解けると思います。
三口です、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3094d/>

ニーナのEvery day

2010年10月22日00時04分発行